

# 消 防 統 計 資 料

(令和3年)

住宅用火災警報器 交換のおすすめ

10年たったら、  
とりカエル。



とりカエル君

Niihama City Fire Department  
新居浜市消防本部

〒792-0025 新居浜市一宮町一丁目5番1号

TEL:0897(34)0119 FAX:0897(34)1189

URL:<http://www.city.niihama.lg.jp/>



# 目 次

	火 災		ページ
1.	火災概況		1
2.	火災種別		2
3.	建物用途別件数		2
4.	月別火災件数		3
5.	時間帯別火災件数		3
6.	曜日別火災件数		4
7.	覚知方法別火災件数		4
8.	校區別火災件数		5
9.	月別原因別火災件数		6
10.	死傷者の発生状況		7
11.	初期消火の状況		7
12.	10年間の火災概況(平成24年～令和3年)		8
13.	消毒用アルコールの安全な取扱いについて		9

	救 急		
1.	救急活動状況		10
	(1) 地区別救急出動件数の推移		11
	(2) 事故種別・年齢区分別搬送人員の状況		11
	(3) 事故種別救急出動状況(月別)		12
2.	応急手当普及啓発活動		13
3.	救急車適正利用のお願い		13
4.	救急支援情報サービス		13

	救 助		
1.	救助概況		14
2.	救助活動状況		14
3.	救助統計		15
4.	過去5年間の救助概況		16

# 火 災



1. 火災概況
2. 火災種別
3. 建物用途別件数
4. 月別火災件数
5. 時間帯別火災件数
6. 曜日別火災件数
7. 覚知方法別火災件数
8. 校區別火災件数
9. 月別原因別火災件数
10. 死傷者の発生状況
11. 初期消火の状況
12. 10年間の火災概況(平成24年～令和3年)
13. 消毒用アルコールの安全な取扱いについて

## 1. 火災概況

令和3年中の火災件数は40件で、前年比較すると16件増加しています。これは約9日に1件の割合で火災が発生したことになります。

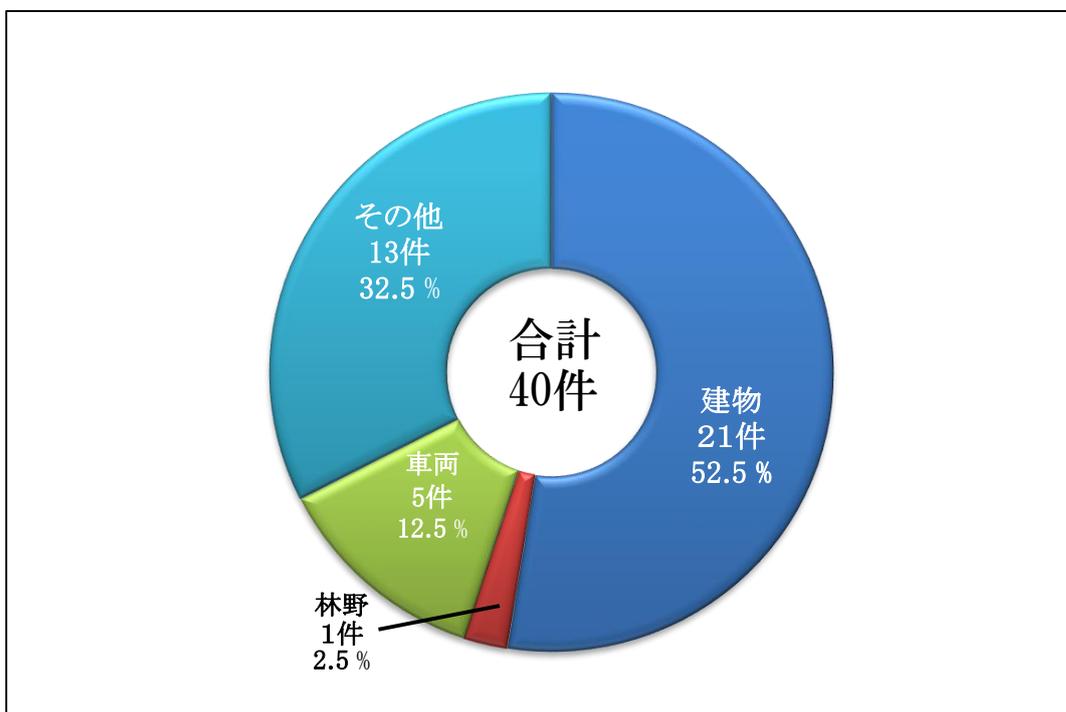
火災による死者は1人（前年1人）、負傷者5人（前年3人）建物焼損棟数は37棟（前年39棟）、建物焼損床面積は2842.27㎡（前年1324.05㎡）となっています。また、火災による損害額は178,162千円で、前年と比較すると23,295千円増加しています。

区 分	単 位	令和3年	令和2年	増 減	
出火件数	出 火 件 数	件	40	24	16
	建 物	〃	21	16	5
	林 野	〃	1	0	1
	車 両	〃	5	3	2
	船 舶	〃	0	0	0
	そ の 他	〃	13	5	8
損害額	合 計	千 円	178,162	154,867	23,295
	建 物	〃	176,196	142,964	33,232
	林 野	〃	0	0	0
	車 両	〃	1,696	867	829
	船 舶	〃	0	0	0
	そ の 他	〃	270	11,036	▲ 10,766
焼損棟数	合 計	棟	37	39	▲ 2
	全 焼	〃	10	14	▲ 4
	半 焼	〃	2	0	2
	部 分 焼	〃	10	6	4
	ぼ や	〃	15	19	▲ 4
焼損面積	建物焼損床面積	㎡	2842.27	1324.05	1518.22
	建物焼損表面積	〃	85.37	25.42	59.95
	林野焼損面積	a	1.7	0.0	1.7
死傷者	死 者	人	1	1	±0
	負 傷 者	〃	5	3	2
	負傷者のうち30日死者	〃	0	0	0
り 災	世 帯 数	世 帯	17	29	▲ 12
	人 員	人	42	55	▲ 13
出 火 率			3.43	2.04	1.30

※出火率とは、人口1万人当りの出火件数をいう。▲は、減少を示す。

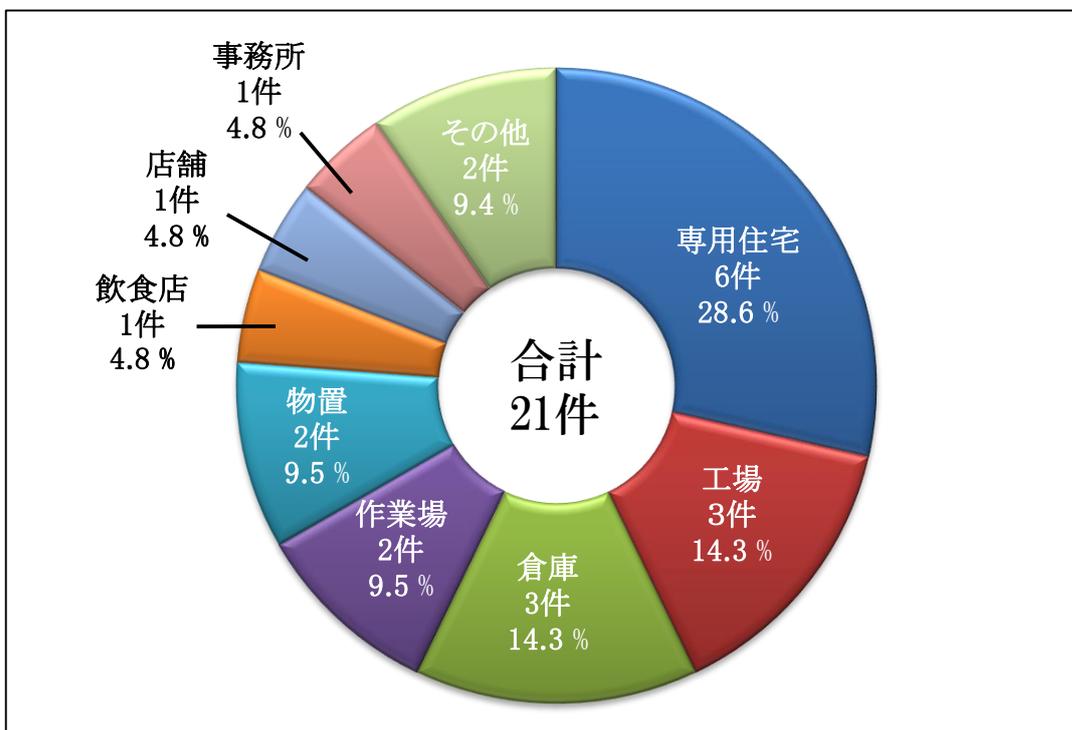
## 2. 火災種別

火災種別ごとの件数をみると、建物火災が21件（52.5%）で全火災の約5割を占めており、次いでその他の火災が13件（32.5%）、車両火災が5件（12.5%）、林野火災が1件（2.5%）となっています。



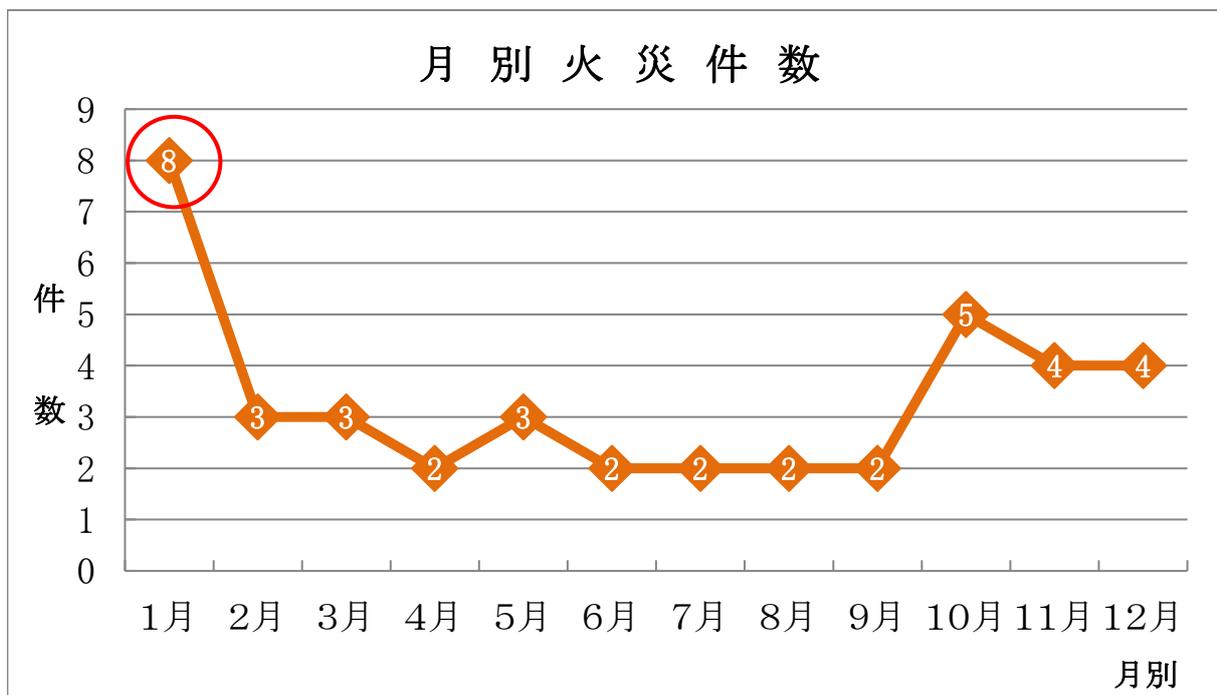
## 3. 建物用途別件数

建物火災を用途別にみると、住宅火災が6件と最も多く、建物火災の約3割を占めています。



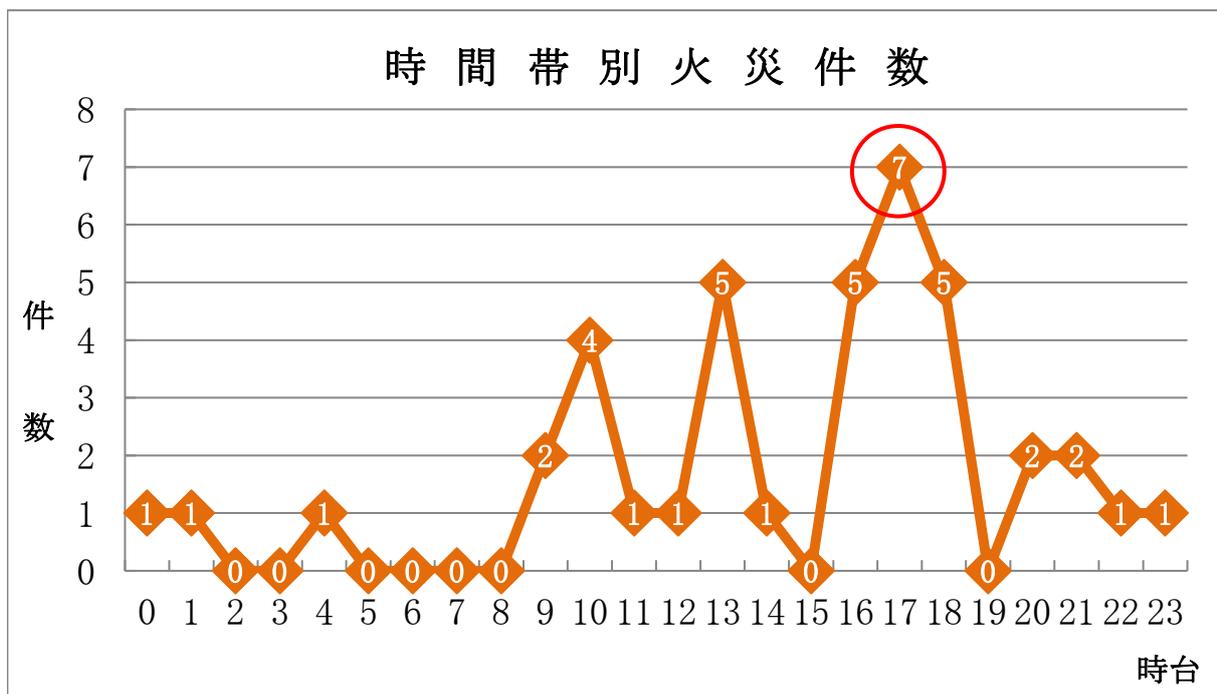
#### 4. 月別火災件数

火災件数を月別にみると、1月（8件）が最も多く、4月、6月、7月、8月、9月（2件）が少ない月となっています。



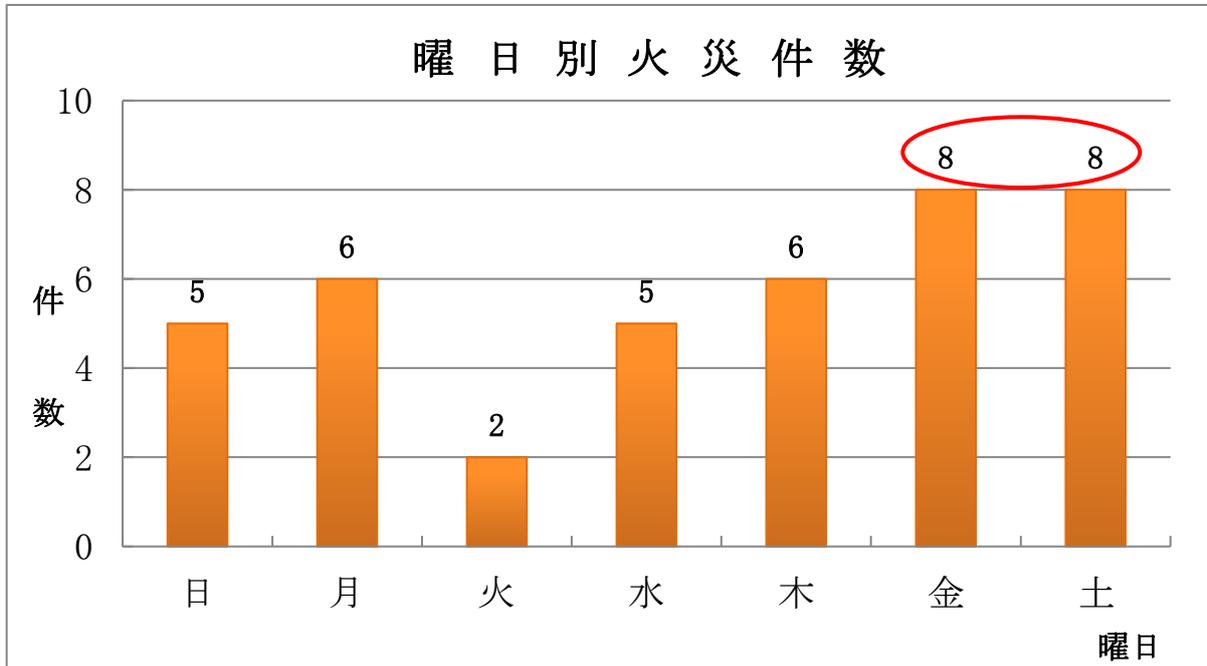
#### 5. 時間帯別火災件数

火災件数を時間帯別にみると、17時台（7件）が最も多く、次いで13時台、16時台、18時台（5件）となっています。



## 6. 曜日別火災件数

火災件数を曜日別にみると、金曜日、土曜日（8件）が最も多く、次いで月曜日、木曜日（6件）となっています。



## 7. 覚知方法別火災件数

消防機関が火災を覚知した方法別にみると、携帯電話からの119番通報（17件）が多くなっています。

覚知方法別	件数	割合
119(携帯電話から)	17	42.5%
119(固定電話から)	11	27.5%
事後聞知	2	5.0%
警察電話	4	10.0%
加入電話	6	15.0%
計	40	100%

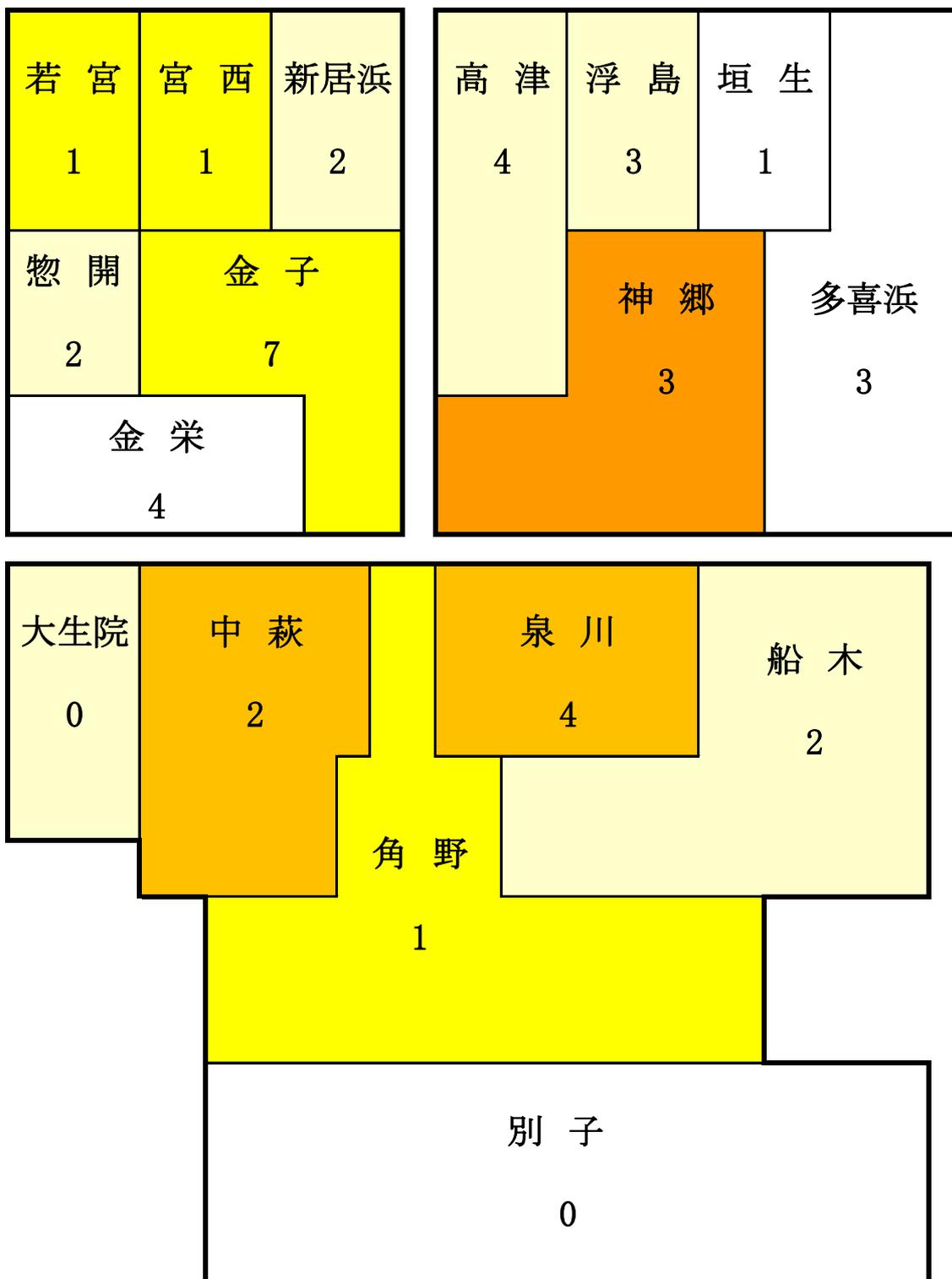
## 8. 校区別火災件数

校区単位での火災発生件数です。

- ・川西地区： 17件
- ・川東地区： 14件
- ・上部地区： 9件

大島

0



※若宮及び大島は旧小学校区

## 9. 月別原因別火災件数

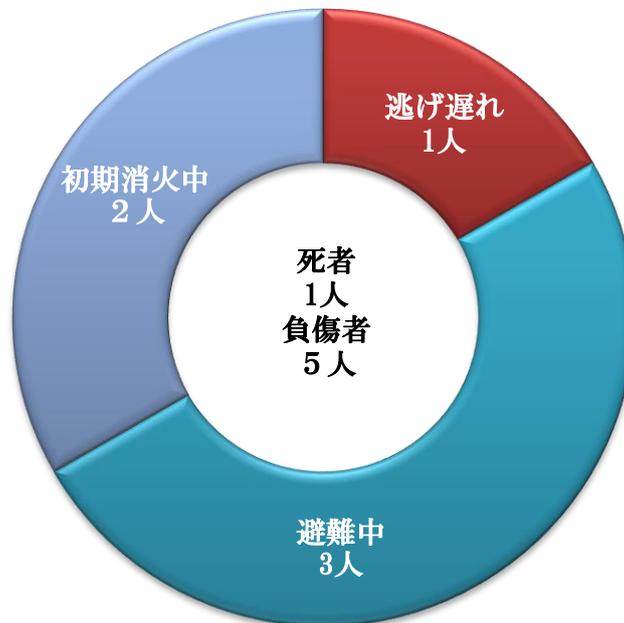
40件の火災を出火原因別にみると、「こんろ」「放火」「放火の疑い」が5件と最も多く、次いで「たばこ」「電気装置」が3件となっています。

月別 原因別	計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
発生件数	40	8	3	3	2	3	2	2	2	2	5	4	4
こんろ	5	2			1		1				1		
放火	5	2	1	1								1	
放火の疑い	5										1	2	2
たばこ	3	1									1		1
電気装置	3	1						1	1				
電灯電話等の配線	1							1					
火入れ	1						1						
ボイラー	1								1				
衝突の火花	1										1		
その他	5		1	1		1				1	1		
不明	10	2	1	1	1	2				1		1	1

## 10. 死傷者の発生状況

火災による死傷者は令和2年中は死者1人、負傷者3人でしたが、令和3年中は死者1人、負傷者5人となっており、比較すると負傷者が2人増加しています。

また、令和3年中の死傷者の内訳は、逃げ遅れによる死者が1人、避難中の負傷者が3人、初期消火中の負傷者が2人となっています。



## 11. 初期消火の状況

初期消火の状況をみると、初期消火が実施されたのは28件で、そのうち21件が初期消火の効果がありました。

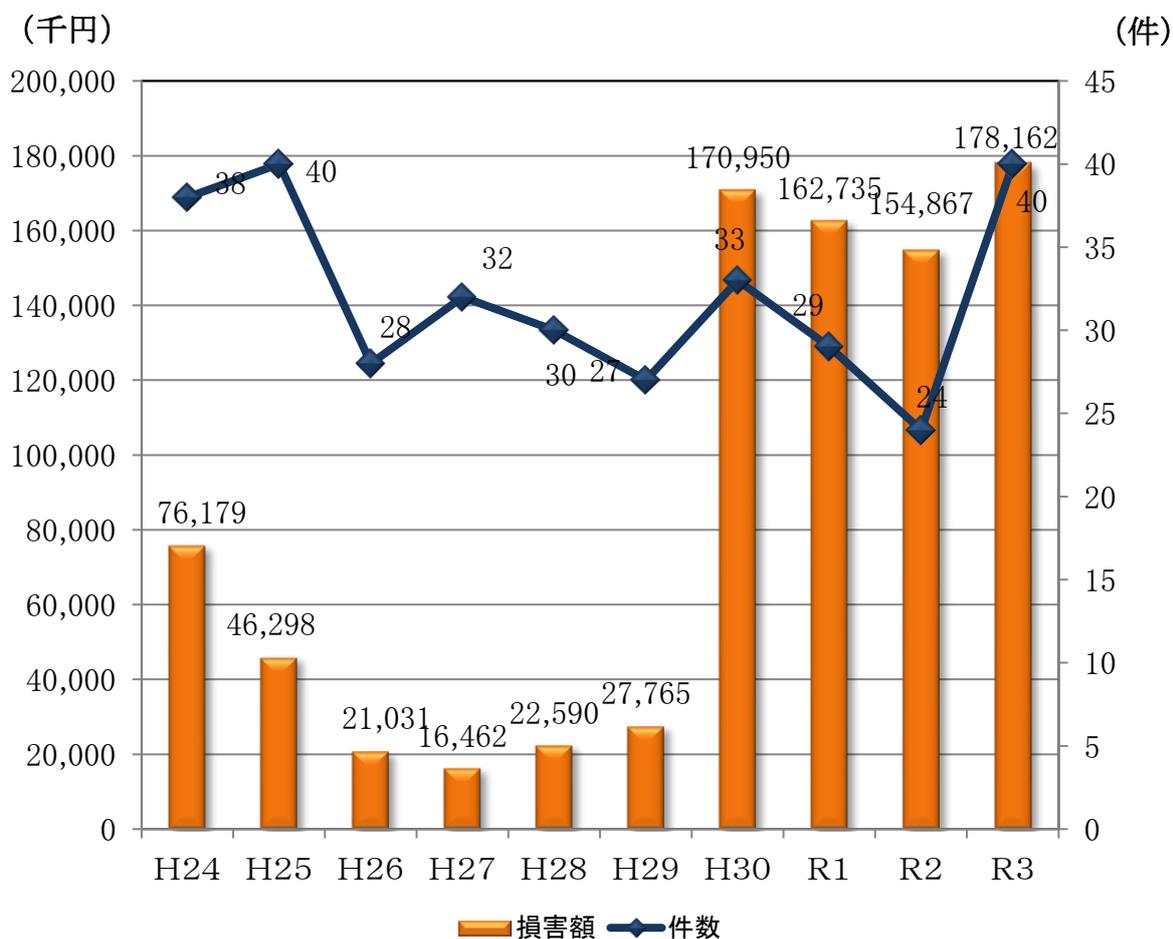
また、使用された初期消火器具等をみると、「水道、浴槽、汲み置き等の水をかけた」が8件で最も多く、次いで「水バケツ」が6件となっています。

火災件数	40件
初期消火実施（構成比）	28件（70%）
初期消火なし（構成比）	12件（30%）

初期消火方法	実施件数	有効件数（有効率）
水道、浴槽、汲み置き等の水をかけた	8件	6件（75%）
水バケツ	6件	5件（83%）
粉末消火器	6件	4件（67%）
屋外消火栓設備	1件	1件（100%）
もみ消した	1件	1件（100%）
寝具、衣類等をかけた	1件	0件（0%）
その他	5件	4件（80%）
<b>合計</b>	<b>28件</b>	<b>21件（75%）</b>

## 12. 10年間の火災概況(平成24年～令和3年)

年別	区分	件数 (件)	損害額 (千円)	負傷者 (人)	死者 (人)	出火原因 (件数)
平成24年		38	76,179	3	1	こんろ(6件)
平成25年		40	46,298	4	0	たばこ(7件)
平成26年		28	21,031	2	5	放火の疑い(5件)
平成27年		32	16,462	5	0	火遊び(5件)
平成28年		30	22,590	8	1	ストーブ、こんろ、 内燃機関、電気機器 (各2件)
平成29年		27	27,765	6	2	電灯・電話等の配線、 たばこ(各4件)
平成30年		33	170,950	5	1	放火の疑い、配線器具 (各3件)
令和元年		29	162,735	3	3	放火、たばこ (各4件)
令和2年		24	154,867	3	1	電灯・電話等の配線、 たばこ、こんろ (各3件)
令和3年		40	178,162	5	1	こんろ、放火、 放火の疑い(各5件)



※平成30年から令和3年については、工場内で発生した火災により損害額が増加

## 13. 消毒用アルコールの安全な取扱いについて

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、手指消毒等のため、消毒用アルコールを使用する機会が増えています。消毒用アルコールは危険物に該当するものもあり、取扱いを誤ると火災等を引き起こす恐れがありますので、注意が必要です。

### アルコールの火災予防上の特徴

- \* 火気に近づけると引火しやすい。
- \* アルコールから発生する可燃性蒸気は、空気より重く、低いところに溜まりやすい。

### 火災予防上の一般的な注意事項

◎火気の近くで使用しないようにしてください。

消毒用アルコールは、蒸発しやすく、可燃性蒸気が発生するため、火源があると引火する恐れがあります。



◎消毒用アルコール容器には「消毒用アルコール」や「火気厳禁な」などの注意事項を記載してください。



◎直射日光が当たる場所や高温となる場所に保管しないようにしてください。

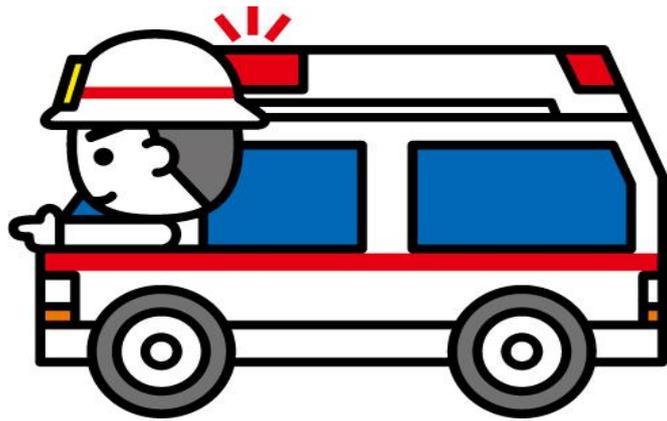
熱せられると可燃性蒸気が発生して危険です。



◎消毒用アルコールの容器を詰替える場合は、通気性の良い場所や常時換気が行える場所を選び、可燃性蒸気を滞留させないようにしてください。



# 救 急



1. 救急活動状況
  - (1) 地区別救急出場件数の推移
  - (2) 事故種別・年齢区分別搬送人員の状況
  - (3) 事故種別救急出動状況（月別）
2. 応急手当普及啓発活動
3. 救急車適正利用のお願い
4. 救急支援情報サービス

## 1. 救急活動状況

### (1) 地区別救急出動件数の推移

令和3年における救急業務の実施状況は、出場件数が5,334件で1日の平均が約14.6件出動していることとなります。その内、医療機関への受診が必要な傷病者（搬送人員）の数は5,020人でした。昨年と比べると出場件数は245件増加し、搬送人員も242人増加しました。依然として救急出場件数及び搬送人員にあっては、5,000件を超えて推移しております。今後、数年間は同じ傾向になるものと考えます。

### (2) 事故種別・年齢区分別搬送人員の状況

搬送人員を事故種別ごとにみると、急病が3,136人（62.5%）、交通事故が383人（7.6%）、一般負傷が903人（18.0%）、その他が598人（11.9%）の割合となっています。依然、急病の占める割合が高いことが伺えます。

また年齢区分は新生児が14人（0.3%）、乳幼児が176人（3.5%）、少年が156人（3.1%）、成人が1,319人（26.3%）、高齢者が3,355人（66.8%）の割合となっており、高齢者の割合が半数以上を占めることが伺えます。

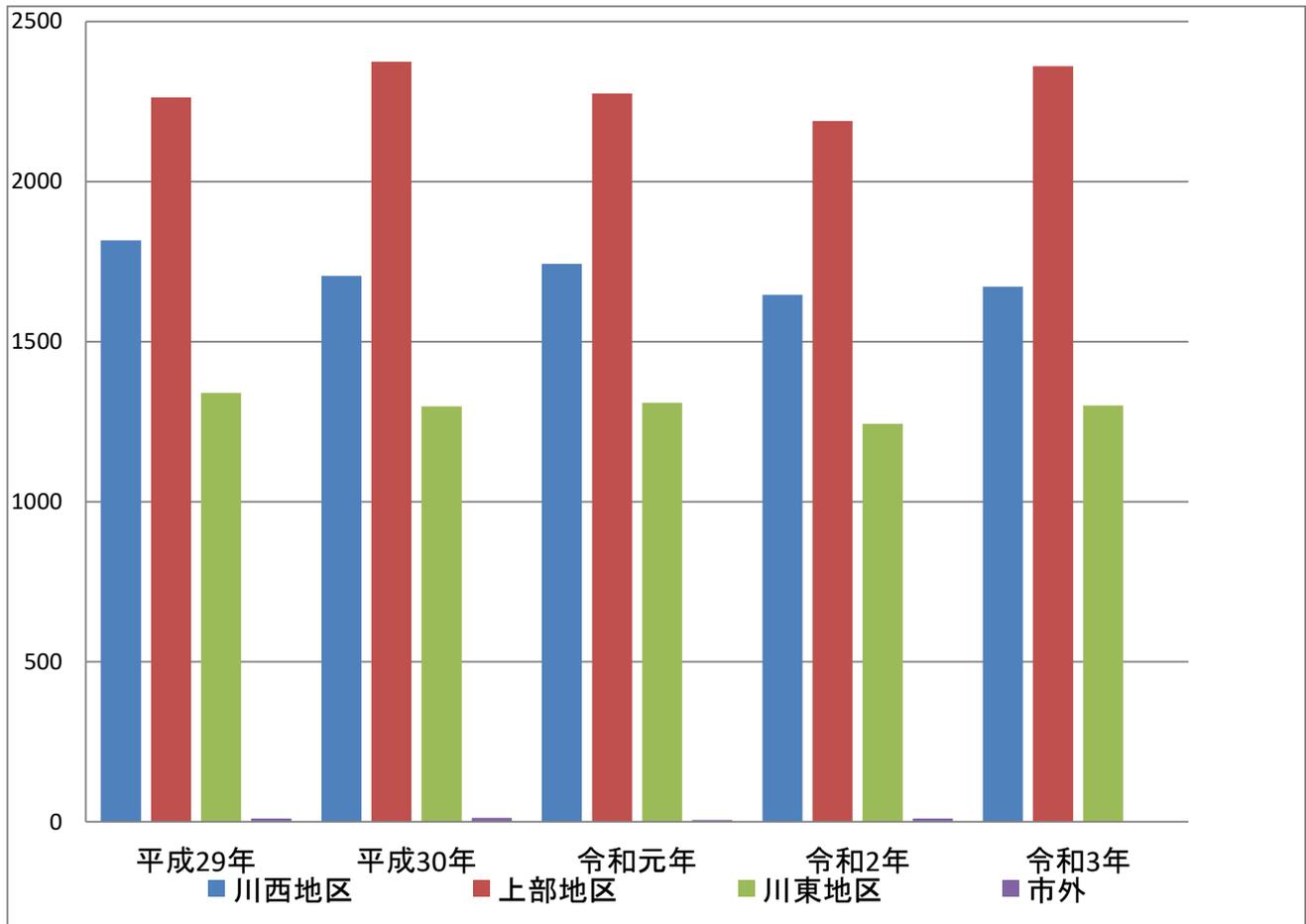
### (3) 事故種別救急出動状況（月別）

別紙参照

令和3年中の救急出動件数は、5,334件でした。事故種別出動件数は、急病事案が最も多く、次いで一般負傷、交通事故の順になっています。

月別の出動件数では12月の出動が最も多く、最小の5月と比較すると98件の差が生じています。

(1) 地区別救急出場件数の推移



年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
川西地区	1,817	1,706	1,743	1,646	1,685
上部地区	2,263	2,375	2,275	2,190	2,361
川東地区	1,340	1,298	1,309	1,243	1,288
市外	10	12	6	10	6
合計	5,430	5,391	5,333	5,089	5,334

(2) 事故種別・年齢区分別搬送人員

(令和3年)

年齢区分	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	計
急病	2	108	72	762	2,192	3,136
交通		10	43	188	142	383
一般負傷		45	21	110	727	903
その他	12	13	20	259	294	598
合計	14	176	156	1,319	3,355	5,020

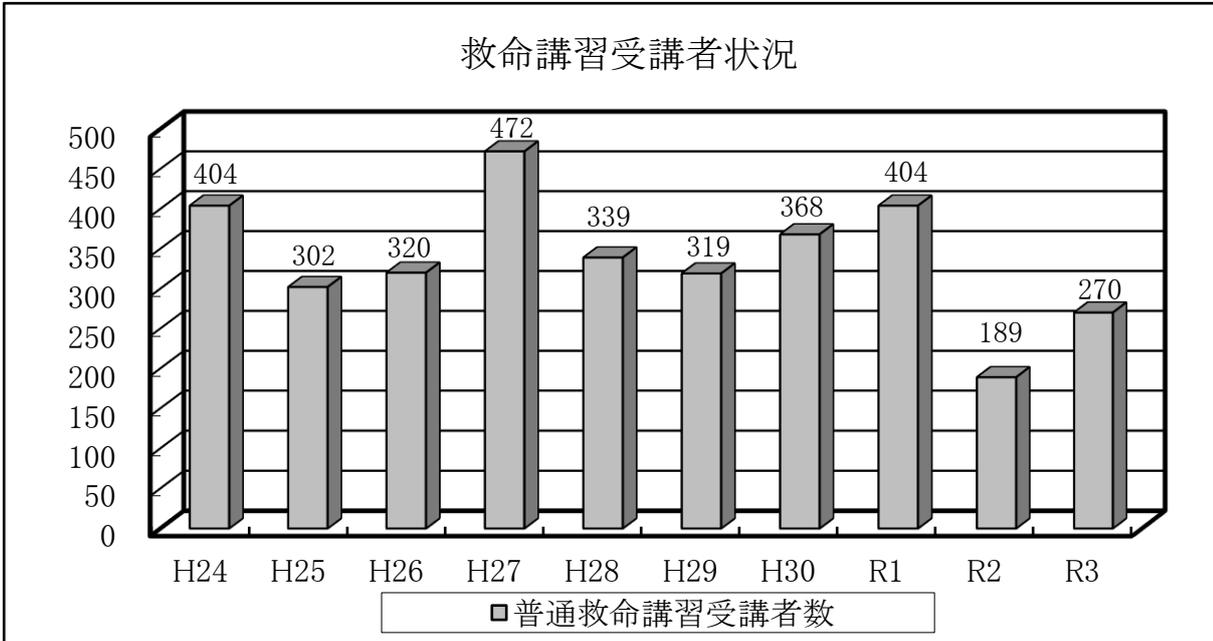
## (3) 事故種別救急活動状況

(令和3年中)

		合計	月 別											
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
出動件数		5,334	487	415	417	416	413	416	455	483	415	440	466	511
搬送人員		5,020	455	389	385	395	385	393	437	459	390	417	437	478
火災	出動件数	4	1	1					1					1
	搬送人員	5	1	2					1					1
自然災害	出動件数													
	搬送人員													
水難	出動件数													
	搬送人員													
交通事故	出動件数	393	30	33	27	24	21	45	39	29	27	34	38	46
	搬送人員	383	30	29	29	24	20	44	43	26	26	30	37	45
労働災害	出動件数	32	1		7	3	4	2	3	1	4	2	3	2
	搬送人員	32	1		7	3	4	2	3	1	4	2	3	2
運動競技	出動件数	16			2		1	4	2	1		1	5	
	搬送人員	15			2		1	3	2	1		1	5	
一般負傷	出動件数	941	96	84	77	86	59	65	67	82	63	75	77	110
	搬送人員	903	95	81	69	81	55	63	66	82	62	75	73	101
加害	出動件数	23	1	3	1	2	1	2	1	3	1	6	1	1
	搬送人員	19	1	3		2	1	1	1	1	1	6	1	1
自損行為	出動件数	37	6	5	2	2	1	4	2	4	1	5	4	1
	搬送人員	25	5	5		2		2	2	4		3	2	
急病	出動件数	3,323	307	240	252	256	288	261	275	316	278	266	281	303
	搬送人員	3,136	282	225	235	241	269	248	263	304	264	254	263	288
その他	出動件数	565	45	49	49	43	38	33	65	47	41	51	57	47
	搬送人員	502	40	44	43	42	35	30	56	40	33	46	53	40

## 2. 応急手当普及啓発活動

救命率の向上を図るには、通報から現場に救急車が到着するまでの間、バイスタンダーによる応急手当が必要不可欠です。本市は市民を対象に救命講習会を開催しており、令和3年中に一般救命講習は27回で受講者数は1,172名、救命入門コースは5回で116名、普通救命講習は12回で270名受講されています。本年も新型コロナウイルス感染症の影響を受けた中での救命講習開催となりましたが、感染対策を徹底し実施することで昨年より、講習回数、受講者数はともに増加しました。



## 3. 救急車適正利用のお願い

近年、救急車の出動件数・搬送人員数はともに増えており、救急隊の現場までの到着時間も遅くなっています。また、救急車で搬送された人の約3割が入院を必要としない軽症という現状もあります。そこで、皆様に上手に救急車を利用いただくため、「救急車を上手に使いましょう ～救急車 必要なのはどんなとき?～」を総務省消防庁のホームページで掲載しております。この中には、救急車を呼んだら用意しておくべきものなど「救急通報のポイント」、重大な病気やけがの可能性のある「ためらわず救急車を呼んでほしい症状」、実際に救急車を呼ぶ場合の「救急車の呼び方」などを載せていますので、救急車を呼ぶべきかどうか判断に困った場合などに、活用していただければと思います。

救急車や救急医療は限りある資源です。みんなで上手に利用し、救急医療を安心して利用することのできる社会を目指していきたいと思ひます。

\*<http://www.fdma.go.jp/>(詳細は総務省消防庁のホームページをご参照ください)

## 4. 救急支援情報サービス

新居浜市HP「Q助」外部リンクバナー  
<http://www.city.niihama.lg.jp/site/syoubou/>

総務省消防庁「Q助」案内サイト  
[https://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9\\_6/kyukyu\\_app.html](https://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_6/kyukyu_app.html)

### 全年齢対応救急受診チャート



# 救 助



1. 救助概況
2. 救助活動状況
3. 救助統計
4. 過去5年間の救助概況

## 1 救助概況

令和3年中の救助出動件数は24件、活動件数は19件となっており、前年と比較すると、出動件数は16件の減少、活動件数は8件の減少となっています。また、救助人員は19人となっており、前年と比較すると14人減少となっています。

## 2 救助活動状況

### (1) 事故種別出動件数・活動件数・救助人員（表-1）

救助出動件数は24件であり、その内訳は、交通事故9件、機械による事故1件、建物等による事故2件、ガス及び酸欠事故1件、その他の事故11件となっています。

活動件数は、19件となっており、交通事故7件、建物等による事故2件、ガス及び酸欠事故1件、その他の事故9件となっています。

救助人員は19人となっており、交通事故7人、建物等による事故2人、ガス及び酸欠事故1人、その他の事故9人となっています。

### (2) 事故種別出動人員・活動人員（表-2）

総出動人員は283人で、1件の事故に対する平均出動人員は11.8人（うち救助隊員3.9人）となっています。

総活動人員は219人で、1件の事故に対する平均活動人員は11.5人（うち救助隊員3.8人）となっています。

### (3) 事故種別出動車両等台数（表-3）

出動車両は、救助工作車19台、消防ポンプ自動車20台、指揮車・指令車4台、救急自動車30台、その他9台で、総出動車両は82台であり、交通事故32台、機械による事故2台、建物等による事故4台、ガス及び酸欠事故2台、その他の事故42台となっています。

### (4) 事故種別活動車両等台数（表-4）

活動車両は、救助工作車15台、消防ポンプ自動車16台、指揮車・指令車4台、救急自動車21台、その他7台で、総活動車両は63台であり、交通事故25台、建物等による事故2台、ガス及び酸欠事故2台、その他の事故34台となっています。

### 3 救助統計

(令和3年中)

表-1 事故種別出動件数活動件数

事故種別		火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機械 による事故	建物等 による事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他の 事故	合計
件数区分											
	出動件数		9			1	2	1		11	24
	活動件数		7				2	1		9	19
	救助人員		7				2	1		9	19

表-2 事故種別出動人員活動人員

事故種別		火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機械 による事故	建物等 による事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他の 事故	合計
出動人員	兼任救助隊員		41			4	6	3		39	93
	消防隊員		35			1		2		57	95
	救急隊員		41			3	7	3		41	95
	合計	0	117	0	0	8	13	8	0	137	283
活動人員	兼任救助隊員		32				6	3		32	73
	消防隊員		31					2		43	76
	救急隊員		29				7	3		31	70
	合計	0	92	0	0	0	13	8	0	106	219

表-3 事故種別出動車両等台数

事故種別		火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機械 による事故	建物等 による事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他の 事故	合計
出動 車両 等	救助工作車		10			1	2	1		5	19
	消防ポンプ自動車		8							12	20
	梯子車・屈折梯子車										0
	化学車										0
	指揮車・指令車		1							3	4
	救急自動車		13			1	2	1		13	30
	船舶										0
	ヘリコプター										0
	その他									9	9
合計	0	32	0	0	2	4	2	0	42	82	

表-4 事故種別活動車両等台数

事故種別		火災	交通事故	水難事故	風水害等 自然災害	機械 による事故	建物等 による事故	ガス及び 酸欠事故	破裂事故	その他の 事故	合計
活動 車両 等	救助工作車		8				1	1		5	15
	消防ポンプ自動車		7							9	16
	梯子車・屈折梯子車										0
	化学車										0
	指揮車・指令車		1							3	4
	救急自動車		9				1	1		10	21
	船舶										0
	ヘリコプター										0
その他									7	7	
合計	0	25	0	0	0	0	2	2	0	34	63

#### 4 過去5年間の救助概況

区分		年別	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
出動件数	火災		2	1			
	交通		20	12	15	16	9
	水難		5	4	2	3	0
	その他		13	12	15	21	15
	合計		40	29	32	40	24
活動件数	火災		2	1			
	交通		13	6	11	7	7
	水難		4	4	2	3	0
	その他		7	8	14	17	12
	合計		26	19	27	27	19
救助人員	火災		2	1			
	交通		15	12	15	13	7
	水難		4	3	3	1	0
	その他		7	12	22	19	12
	合計		28	28	40	33	19

